

霞が関働き方改革推進チーム（第2回）議事概要

○日時：平成28年12月20日（火）15:30～18:00

○場所：コクヨ霞が関オフィス

○概要

1. 今回の会議までにグループごとに議論した結果を共有。

- ・働き方改革の目的として、時間制約のある職員をはじめ、全職員が仕事と生活を両立しながら国民に良質なサービスを継続的に提供することなど、組織と個人の視点からの意見
- ・重点的に取り組むべき事項として、生産性向上や意思決定の迅速化などの業務改革、マネジメントを行う職員の意識改革
- ・推進上のポイントとして、働き方改革が全職員共通の課題と認識されることや、働き方改革への抵抗感をなくすこと

などが挙げられた。

2. ファシリテーターによる進行のもと、10年後の理想の中堅・若手行政官の姿についてグループ討議をしたところ、各グループから挙げられた主な意見は以下のとおり。

- ・成果や目的へのスタンス（品質、優先順位等）に対する共通理解があること
- ・主体性をもって仕事に取り組めること
- ・自分たちが時間をかけて学んできた知識・スキルを体系的・効率的に学べる
- ・時間、場所、業務量を自律的にコントロールできる
- ・単純作業はAI等に代替させ、人間が頭を使って考える業務に時間をかける

3. さらに、10年後の理想を実現するため、理想と現状とのギャップが生じている原因や、ギャップを埋める方法について議論をしたところ、各グループから挙げられた主な意見は以下のとおり。

- ・時間は有限という認識、業務の優先順位付けが不十分ではないか
- ・失敗をおそれすぎ、細部にこだわりすぎ
- ・マネジメント能力がないままに管理職になってしまったり、かつての自分の経験を部下に強要してしまっていないか
- ・絶対的な業務量の削減と、現状を改善するインセンティブの明確化が必要
- ・行政府では人が資源だが、民間企業との人材獲得競争について危機感が不十分

引き続きチャット型クラウドボードを活用してグループごとに議論を継続し、次回の冒頭で議論の結果を共有することとなった。

以上